

「大自然や歴史を肌で感じる町 室戸」の道

高知県 むろとし 室戸市 建設課

1. はじめに

高知県東部に位置し、太平洋に向かって鋭く突出した逆三角形のまち、それが室戸市です。(写真①・図①)

総面積 248.3km²、海岸線延長 53.3km の本市では、土佐古式捕鯨発祥の地や遠洋マグロ漁業の基地など古くから水産業の町として栄えてきました。しかし、現在では漁業をとりまく環境も変化し“とる漁業からつくり育てる漁業”へその転換を図り、海洋深層水を利用した新たな産業の創出にも取り組んでいます。また、温暖多雨な気候を活かし、ビワ、ポンカン、水晶文旦などの果樹やナス、ピーマン等の栽培も盛んに行われています。

(写真②)

室戸市は大自然を肌で感じ、その歴史にふれる事が出来る場所でもあります。室戸半島の海岸沿いは、巨大地震が地殻の急激な隆起を引き起こし造られた世界的にも珍しい地形や地質の宝庫であり、平成 23 年 9 月には四国初となる世界ジオパークに認定された『室戸ジオパーク』を始め、若き日の空海（弘法大師）が約 1200 年前に修行の場として選び、悟りを開いた際に寝起きをしたとされる洞窟『御厨人窟』などがあります。

(写真③)



写真① 太平洋から望む「室戸岬」



図① 室戸市の位置



写真② 海洋深層水を利用した健康増進施設



写真③ 地球の息吹を感じる「室戸ジオパーク」

また市内各地には、古くからたくさんの唄や踊りなど数多くの伝統行事があり、その文化と心は現在も

広く後世へと受け継がれています。このような自然・歴史・文化などを大切にしながら、室戸市はまちづくりに取り組んでいます。

2. 室戸の道とその維持管理

本市は、先にも述べたとおり海岸線を 53.3km 有し、その海岸線沿い集落の背後地には管内を南北に縦走する四国山系の支脈に大小の山々が連なっています。こういった地形である為、あらゆる面において「道」は全ての基盤となっています。本市における道とその維持、取り組みについてご紹介させていただきます。

～生活と命の道として～

本市の管理する市道は 538 路線あります。最近では国の交付金事業などを活用し整備を進めていますが、山間部や中心地の狭隘道路においては未整備の路線が数多く残っており、「住民の安心・安全の確保ができる道づくり」は市の重要課題の 1 つとなっています。

山間部では、切り立った崖からの落石や豪雨・台風による土砂災害が懸念されている他、市内中心部においては狭隘道路が点在し、その多くが緊急車両や福祉車両の通行が不可能であるという現状です。また、近い将来に発生するとされている南海地震においても市道は避難道としての重要な役割を担っている為、その機能を十分果たすべく、市道パトロールや落石対策工事、道路側溝の改良工事などに重点をおき整備に取り組んでいます。

(写真④、⑤)

～産業の道として～

水産業と併せて農林業も盛んな本市では、果樹の栽培や施設園芸が行われており、「良質なものを少しでも早く消費者の元へ」という思いで生産者は出荷をしています。また、林業の特産物としては良質で火力が強いことで定評のある白炭「土佐備長炭^{とさびんちようたん}」が生産され、県内外にも多く出荷されています。(写真⑥)

こういった産業のさらなる振興に向け、道路舗装整備等を行うなど交通アクセス時間の短縮や木材搬出の効率化を図っています。



写真④ 落石対策により安心・安全が確保された道



写真⑤ 緊急車両の通行が可能となった市道



写真⑥ 80%以上が室戸で生産される「土佐備長炭」

～歴史の道として～

本市の歴史的な道としては、遍路道が代表的です。空海によって開創された四国八十八カ所を巡礼することを遍路といい、最近では信仰、自分探し、癒しなど様々な目的で多くの人が札所を訪れます。

本市には、東から高知県に入り最初の霊場である「最御崎寺」を始め、「津照寺」、「金剛頂寺」と3つの霊場があります。仏門に入って間もない空海が、難行苦行の末に悟りを開いた特別な場所である本市ではこの3霊場を「室戸三山」と呼び親しまれています。

遍路道も当時とは違い、整備されてはいますが霊場へと続く県道や市道においては、草刈りや路面補修なども“巡礼される方々に対するおもてなしの心の1つ”としてとらえ、維持管理を行っています。

(写真⑦、⑧)



写真⑦ 3霊場の1つ「26番札所 金剛頂寺」



写真⑧ 空海修行の地「御厨人窟」からの朝日

～伝統の道として～

台風の襲来が多い本市では、先人の知恵によって強い雨風から漆喰の白壁を守る「水切り瓦」や、強風から家を守る「いしぐろ」と呼ばれる石垣塀など土佐の厳しい気候風土に対応した建築様式として、独自の工法が発達しました。中でも市内西よりに位置する吉良川町は、現在でもそういった建物が住民の生活の場とされており、回船問屋や米穀商、炭屋などが多くあった当時をしのぶレトロな町並みが残っています。また、高知県で初めて国の重要伝統的建造物群保存地区として指定されています。

この伝統的な町並みを守り続けていく上で、市としては道路排水や路面補修などの維持管理を行っています。また、地域の有志により「町並み保存会」が組織されており、観光案内のボランティアガイドを始め町並み内の道においても、美化活動に取り組んで頂くなど住民の方々の努力により、この美しい町並みが維持されています。(写真⑨)



写真⑨ 伝統的な建物が残る「吉良川の町並み」

～住民により維持される室戸の道～

このように様々な面がある本市の道は、地域の方々と行政が一体となり維持管理がされています。

海岸線を^{はし}る国道55号線では、たくさんのロードボランティアの方々によって、市民はもちろんのことお遍路さんや観光客の方々にきれいな道を通って頂きたく、清掃美化や緑化作業などが行われています。ハイビスカスやアロエなど、四季折々の花を楽しむことが出来るよう維持されています。



写真⑩ 南国を感じさせるハイビスカスロード

市道においても、「自分たちの利用する道は自分たちで」といった地域の方々の意識により、常会単位で委託契約を結び定期的な草刈りなどを行っています。このような維持管理は、過疎化や少子高齢化が進む本市において、地域住民の結束力を高める良いきっかけとなっています。また委託料は、地域の^{じんさい}神祭や行事などの自治活動費へ使われるなど常会によってその用途は様々ですが、地域の活性化に大きく繋がっていると思われまます。

また、地元常会だけでなく「シルバー人材センター」とも委託契約を結び、市道パトロールや草刈り、路面補修、側溝の清掃など維持管理への迅速な対応が行えるような仕組み作りにも取り組んでいます。

(写真⑪、⑫)



写真⑪ 住民による市道維持管理



写真⑫ シルバー人材センターによる路面補修

3. おわりに

本市における道とその維持、取り組みについてご紹介させて頂きましたが、現状では未整備の道や維持管理の仕組みが確立できていない道が多くあります。財政難や過疎化、少子高齢化など様々な問題がありますが、現在行っている取り組みや活動を一步とし、行政と市民が一丸となって「室戸の道」を守り続けたいと思っています。